

2025 年度（令和7年度）学校評価自己評価表

鷹取中学校区	校番 11	福山市立 光 小学校
最終更新日		2025年（令和7年）4月1日

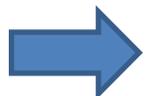
I 福山市

ミッション	福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
ビジョン	各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区

前年度学校関係者評価の主な内容	児童生徒の現状	育成する力 資質・能力	知識・技能	課題発見・解決力	主体性
<ul style="list-style-type: none"> 地域を大切に思う児童生徒を育成して欲しい。 コミュニティ・スクール導入にあたり、地域にも説明し、どんな協力体制が築けるか一緒に考えたい。 児童・生徒と共に会議をし、地域課題を考えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 基礎学力はおおむねついているが、思考力に課題がある。 人間関係づくりが苦手な子どもが増えてきている。 長欠や不登校の子どもが一定数いて取組をしているが改善が難しい。 	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	気づき	考え	行動する 子ども
		中学校区として統一した取組等	<ul style="list-style-type: none"> 子どもたちが「わかる・できる」と思える教育活動の推進 地域課題に気づき、地域と共に課題解決できる児童・生徒の育成 教職員の笑顔・元気 		

III 自校

ミッション	鷹取中・霞小と連携しながら、資質・能力の育成を図ることを通して、地域に誇れる学校を創造する。	育成する力 資質・能力	知識・技能	課題発見・解決力	主体性
学校教育目標	自ら学ぶ光っ子の育成	めざす子ども像	<ul style="list-style-type: none"> 課題の解決に必要な知識及び技能を身につけている。 	<ul style="list-style-type: none"> 身近な問題における課題を発見し、より良い解決方法を考え実行し、次の学習につなげることができる。 相手の気持ちを理解しながら意見を伝え合うことを通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> 自己の個性や興味・関心等に基づいて、自分の意思をしっかりともち、よりよい学校生活になるように行動することができる。 自分のよさや個性を知り、自分への言動が相手や他者への影響を及ぼすことを理解し、行動することができる。
現状	<p><児童></p> <ul style="list-style-type: none"> ○「考えることが楽しい」85.3%、算数科テストの知識・技能の平均は82.9点と基礎学力はおおむね定着している。「体を動かすことが好き」は91.1%。 ○縦割り総合や地域とのつながりのあるふるさと学習を仕組み、「地域が好き」は91.2%と地域を愛する心が育ってきている。 ●算数科テストの思考の平均は71.9点と思考力に課題がある。 ●学校や教室に位置付けない児童が一定数おり、自己肯定感の向上が課題である。 <p><授業></p> <ul style="list-style-type: none"> ○低学年から、就学前の遊びや体験と小学校の学びをつなぐ授業づくりに取り組み、教科横断的な単元開発を行っている。 ●各教科の本質に迫りきれておらず、活用できる学力になっていない。 				
研究	テーマ	他者・自己との「対話」を通して学び合いを楽しむ児童の育成			
	内容等	<ul style="list-style-type: none"> ・グループトーク（ワーク）の時間をもつことで、他者の考えを知り自分の考えを深めることができるであろう。 ・振り返りを充実させることで、本時の理解と次時への意欲につながるであろう。 			
めざす授業の姿	児童の「問い」を活かす授業 思考を深め、広げる授業 ふりかえりが充実した授業 学びがにつながる授業	 <ul style="list-style-type: none"> 課題を解決しようとする子どもの姿 対話が弾む子どもの姿 自分や友のがんばりに気づく子どもの姿 もっとやりたいと思う子どもの姿 			

IV 目標・取組及び評価指標等の設定と評価

福山市立 光小学校

年 目	中期経営目標	重 点 分 類	短期経営目標	目標達成に 向けた取組	評価指標	中間評価(10月1日)				最終評価(2月末)			
						□指標に係る 取組状況	力 を 使 い て	達 成 評 価	改善方策	□指標に係る 取組状況 ◎短期(中期)経営 目標の達成状況	力 を 使 い て	達 成 評 価	総合 評価
2	子どもたちが「わかる・できる」と思える教育活動の推進	★ 継続	<ul style="list-style-type: none"> 「わかる・できる」が実感できる授業づくりを推進する。 個に応じた細やかな支援や自信を持たせる取組を工夫する。 	<ul style="list-style-type: none"> つたい力を明確にした授業を目指す。 全校で算数検定・漢字検定を実施する。 できていることをその都度具体的に評価する。 体育の授業改善や学級遊びにより、運動への関心を高める。 家庭と連携し、ゲーム、スマホの時間について考える。 	<ul style="list-style-type: none"> 「考えることが楽しい」85%以上 学期末テスト算数知識・技能83点、思考75点以上 「自分のよさが認められている」83%以上 「体を動かすことが好き。」90%以上 家庭学習の習慣化とゲームの時間を減らす。 								
1	地域課題に気づき、地域と共に課題解決できる児童・生徒の育成	見直し	<ul style="list-style-type: none"> 住み続けられるまちづくりを目指し、地域の課題を発見し、解決に向けた取組を進める。 CSの取組を進め、地域の一員としての自覚を高める。 	<ul style="list-style-type: none"> 人と関わりつながり重視し、主体的な学びを生み出す単元開発を行う。 縦割り総合(光タイム)を通して地域との関わりを深める。 CSと関連して、挨拶運動を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 「地域が好き」90%以上 「相手に聞こえる声で気持ちの良いあいさつをしている」85%以上 								
1	教職員の笑顔・元気	見直し	<ul style="list-style-type: none"> 協働的な教材研究により、授業の向上につなげる。 自分の強みを生かした取組を実践する。 	<ul style="list-style-type: none"> 個々の強みを生かしたり求めるテーマを設定したりしてニーズ研修を行う。 協働的な教材研究や授業参観を通して授業改善を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 教師アンケート「自分の個性が認められている」90%以上 「研究日などに、学年やチームで教材研究を行った。」90%以上 								

[プロセス評価の評価基準]

[達成評価の評価基準]

[総合評価の評価基準]

評点	評価基準
5	取組の目的に対する共通理解が顕著に認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が十分に図られた。
4	取組の目的に対する共通理解が認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決が概ね図られた。
3	取組の目的に対する共通理解が一定程度認められ、状況の変化、問題が生じた際は、協同的な課題解決がある程度図られた。
2	取組の目的に対する共通理解が認められ難く、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決があまり図られなかった。
1	取組の目的に対する共通理解が認められず、状況の変化、問題が生じた際の協同的な課題解決が図られなかった。

評点	評価基準
5	目標を大幅に達成し、十分な成果をあげた。
4	目標を概ね達成し、望ましい成果をあげた。
3	目標をある程度達成し、一定の成果をあげた。
2	目標を下回り、成果よりも課題が多かった。
1	目標を大きく下回り、成果が認められなかった。

評点	評価基準	
5	100%以上の達成度	十分に目標を達成できた。
4	80%以上100%未満の達成度	概ね目標を達成できた。
3	60%以上80%未満の達成度	ある程度目標を達成できた。
2	40%以上60%未満の達成度	あまり目標を達成できなかった。
1	40%未満の達成度	目標を達成できなかった。